

オホーツク管内における 国際水準GAPの現状と取組事例



令和2年3月

網走農業改良普及センター

目 次

発刊にあたって

1	G A Pとは	1
2	G A Pに取り組む意義	3
3	国際水準G A Pの種類と認証数	6
4	G A P認証農場における事例調査の要約	9
5	G A Pに取り組んだ農場の経済性	12
6	G A P認証農場の事例	13
7	審査・認証にかかる費用	39
8	G A P導入に関する共通の問題点と改善方策	41
9	写真で見るG A Pの取組事例	42
参考資料	国際水準G A Pの審査・認証機関一覧	45
謝辞・引用文献・執筆者		47

発刊にあたって

近年、農業の持続可能性を確保するための生産工程管理手法として、GAP（Good Agricultural Practice）が注目されています。

北海道では、「食の北海道ブランド」をさらに向上させるための一つの取組として、第5期北海道農業・農村振興推進計画（平成28年3月策定）で「道内の概ね全ての産地へのGAP導入」を進めています。

オホーツク管内においても、食品安全、環境保全、労働安全等に関する課題があることから、GAPは全ての農業者が取り組むべき手法として、関係機関が連携の上、農業者への普及啓発、指導員の育成、認証取得に向けた農場支援等が行われており、徐々に国際水準GAPの認証農場も増えていきます。

網走農業改良普及センターでは、農業者へのGAP導入支援のみならず、平成30年には「AS IAGAP・JGAP導入の手引き」を発行するなど、指導員の育成についても積極的に取り組んでまいりました。また、普及指導員の調査研究として、平成30年度から「オホーツク管内におけるGAPの現状と今後の推進方策」に取り組み、これまで事例調査、先進地視察、研修会などを通じ、普及指導員としての資質向上を図りながら、GAPに係る今後の推進方策について検討してきたところです。

本書は、2ヵ年にわたる調査研究のまとめとして、オホーツク管内における農産物を中心としたGAPの現状、農業経営への効果、GAP導入事例等を記載していますので、今後、GAPの導入を検討している農業者の方々の一助として活用いただければ幸いです。

本書の作成にあたり、ご協力をいただきました農業者、関係機関各位に心より感謝を申し上げます、発刊の言葉といたします。

令和2年3月

北海道オホーツク総合振興局産業振興部

網走農業改良普及センター

所 長 石川 卓治